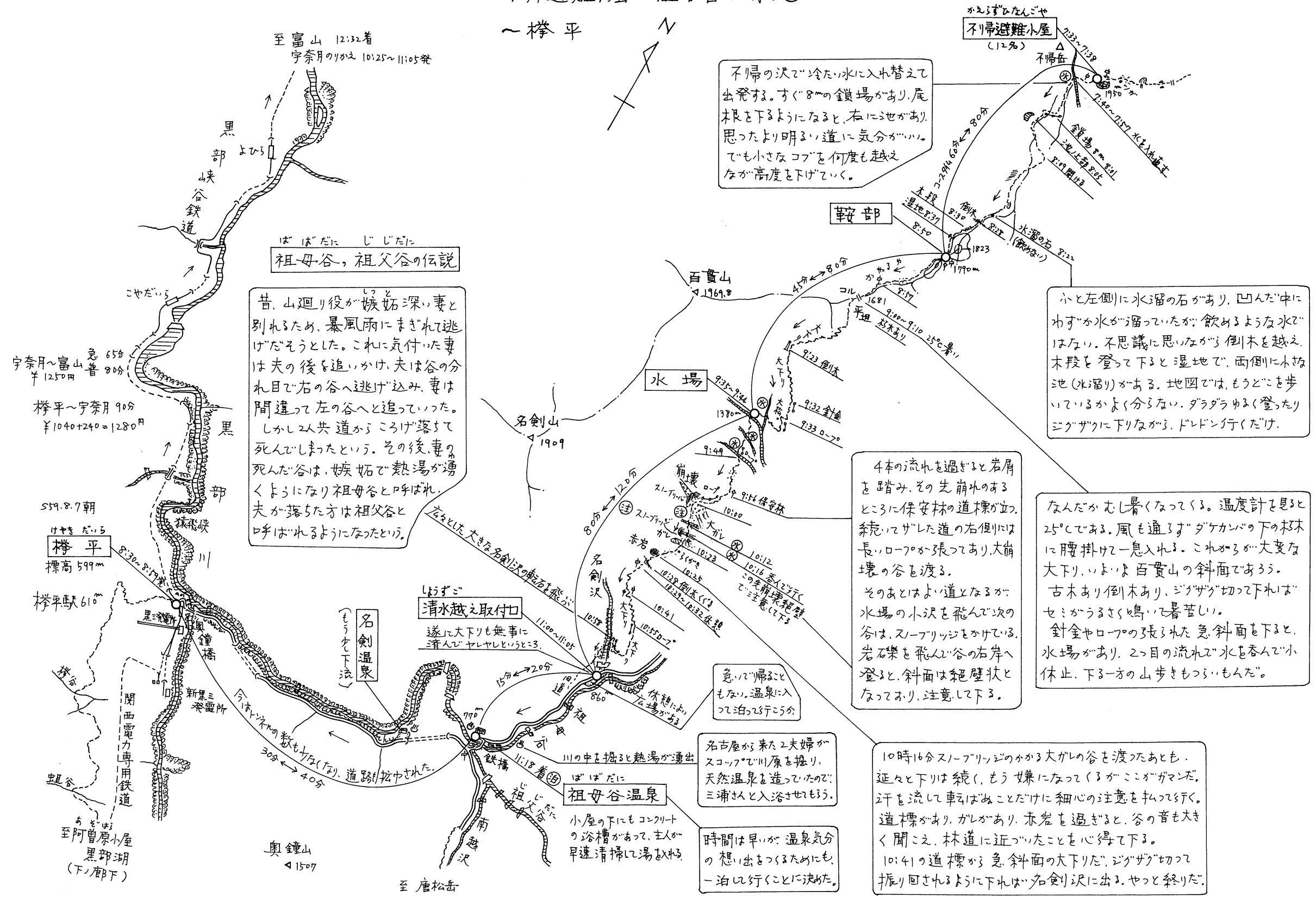


不帰避難小屋～祖母谷温泉⑩

～ 樺平



不帰の沢で冷たい水に入れ替えて出発する。すぐ8mの鎖場があり、尾根を下るようになると、右に池があり、思ったより明るい道に気分がハッ。でも小さなコブを何度も越えながら高度を下げている。

ふと左側に氷溜の石があり、凹んだ中にわずかに水が溜っていたが、飲めるような水ではない。不思議に思いつき倒木を越え、木段を登って下ると湿地で、両側に小な池(氷溜り)がある。地図では、もうどこも歩いているかよく分らない。だらだらゆるく登ったりジグザクに下りながら、ドレドレ行けた。

4本の流れも過ぎると岩屑を踏み、その先崩れのあるところに保安林の道標が立つ。糸状にサレた道の右側には長いロープが張ってあり、大崩壊の谷を渡る。そのあとはよい道となるが、水場の小沢を飛んで次の谷は、スノーブリッジをかける。岩石も飛んで谷の右岸へ登ると、斜面は絶壁状になっており、注意して下る。

なんだかむし暑くなってくる。温度計を見ると25℃である。風も通るが、ダケカンパの下の木に腰掛けて一息入れる。これからが大変な大下り。いよいよ百貫山の斜面であろう。古木あり倒木あり、ジグザグ切つて下ればセミがうるさく鳴いて暑苦しい。針金やロープの張る水急斜面を下ると、水場があり、2つ目の流れで水も吞んで小休止。下る一方の山歩きもつらいもんだ。

10時16分スノーブリッジのかわる大ガレの谷を渡ったあとも、延々と下りは続く、もう世間になつてくるかここがガマンだ。汗を流して車はみことだけに細心の注意を払って行く。道標があり、ガレがあり、赤岩も過ぎると、谷の音も大きく聞こえ、林道に近づいたことを心得て下る。10:41の道標から急斜面の大下りだ、ジグザグ切つて振り回されるように下れば、名剣沢に出る。やっと終った。

名古屋から来た2夫婦がスコップで川原を掘り、天然温泉を造ったので、三浦さんと入浴させてもらう。

時間は早い、温泉気分の思い出をつくるためにも、一泊しに行くことに決めた。

祖母谷、祖父谷の伝説

昔、山廻り役が嫉妬深い妻と別れたため、暴風雨にまぎれて逃げたそうとした。これに気付いた妻は夫の後を追いかけて、夫は谷の分れ目で右の谷へ逃げ込み、妻は間違えて左の谷へと追っていった。しかし二人共道からころげ落ちて死んでしまったという。その後、妻の死んだ谷は、嫉妬で熱湯が湧くようになり祖母谷と呼はれ、夫が落ちた方は祖父谷と呼はれるようになったという。

清水越え取付口

遂に大下りも無事に清水でヤレヤレというところ。

祖母谷温泉

小屋の下にもコンクリートの浴槽があって、主人が早速清掃して湯をぬる。

奥鐘山 1507

至 唐松岳

至阿曾原小屋 黒部湖 (下ノ原下)